

※資料に関するお問い合わせ先

奈良国立博物館 学芸部 情報サービス室

Tel 0742-22-4463(直通) Fax 0742-22-7221

令和元年 12月6日

奈良国立博物館

特別陳列

重要文化財

## 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板

－文化財写真の軌跡－

**Glass Photographic Plates of the Murals in the Kondō Hall of  
Hōryū-ji Temple: Tracing the History of the Photography of  
Cultural Properties**

プレスリリース

[1] 会 場 奈良国立博物館 西新館

[2] 会 期 令和元年 12月7日(土)～令和2年 1月13日(月・祝)

休 館 日 毎週月曜日、1月1日 ただし 12月30日、1月13日は開館

開館時間 午前9時30分～午後5時

※金・土曜日は午後8時まで(12月28日は午後5時まで)

※12月17日(火)は午後7時まで

※入館は閉館の30分前まで

[3] 主催等

主 催 奈良国立博物館、法隆寺、便利堂、朝日新聞社

学術協力 国立情報学研究所高野研究室

協 力 文化財活用センター、東京大学史料編纂所、仏教美術協会

[4] 観覧料金	一 般	520円 (410円)
	大 学 生	260円 (210円)

※ ( ) 内は以下の料金です。

- ① 責任者の引率する 20 名以上の団体
- ② 親子割引 [高校生以下および 18 歳未満の方と一緒に観覧される方]
- ③ レイト割引 [閉館時間延長日の午後 5 時以降に観覧される方]
- ※ 高校生以下および 18 歳未満の方、満 70 歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方 (介護者 1 名を含む) は無料です。
- ※ この観覧料金で、同時開催の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(東新館)、名品展「珠玉の仏教美術」(西新館)、特集展示「新たに修理された文化財」(西新館、12 月 24 日より開催)、「珠玉の仏たち」(なら仏像館)・「中国古代青銅器」(青銅器館) もご覧になれます。
- ※おん祭お渡り式の日〔12 月 17 日 (火)〕はどなたでも無料でご覧になれます。

[5] 展示件数 41 件

[6] 展覧内容

実用的な写真技術は、19 世紀前半にヨーロッパで発明されてからほどなくしてわが国にもたらされ、やがて日本人の写真師が誕生します。明治 4 年 (1871) には蜷川式胤の発案により横山松三郎よこやまつさぶろうが旧江戸城を撮影し、翌年のいわゆる壬申検査じんしん (日本ではじめての本格的な文化財調査) でも数多くの宝物や建物が写真におさめられました。以来、文化財は主要な被写体であり続けます。写真により記録に残すということは、経年や修理などによる変化を避けられない文化財にとってつねに重要な課題だったのです。また写真は、いまでは常識となっている文化財という概念を社会に定着させ得る契機ともなりました。

昭和 10 年 (1935) には文部省の国宝保存事業の一環として、京都の美術印刷会社 便利堂べんりどうが法隆寺金堂壁画十二面を撮影し、巨大壁画の精緻な記録作成に成功しました。昭和 24 年 (1949) の火災により壁画は惜しくも損傷を免れませんでした。このときの写真は往時のかがやきを伝える存在として貴重です。平成 27 年 (2015) にはこれらの写真の歴史的・学術的価値があらためて評価され、国の重要文化財に指定されました。

この展覧会では、法隆寺金堂壁画写真ガラス原板を中心に、近代以降に多くの人びとが文化財の写真撮影に精力を傾けた軌跡を振り返ります。

[9] 主な出陳品

※前期展示：12月7日～22日 後期展示：12月24日～1月13日

1. 重要文化財

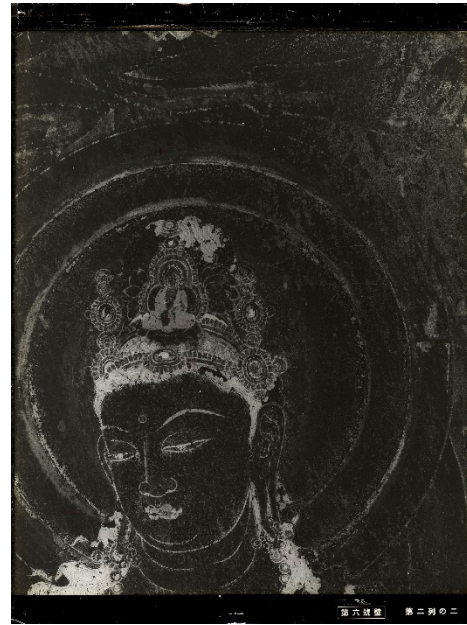
ほうりゅうじこんどうへまがしやしん ほんばん  
法隆寺金堂壁画写真ガラス原板〔出陳番号 31〕

昭和10年(1935)撮影

奈良・法隆寺



第六号壁 阿弥陀如来像 (前期展示)



第六号壁 第二列の二 (後期展示)

昭和10年(1935)の国宝保存事業の一環として、法隆寺金堂壁画全12面を原寸大で分割撮影した写真。全紙判という大型のガラス乾板をもちい、大壁4面、小壁8面をそれぞれ42枚、24枚に分割している。仏菩薩の面相など重要箇所は別撮りをしている。写真は極めて高い解像度を保ち、如来の螺髪、菩薩の地髪や垂髪の毛筋、しなやかにうねる眉の濃淡、流麗な衣褶線やモノクロームの濃淡としてうかがわれる豊かな賦彩など、壁画が備える卓越した技術と高度な美的創造性をみることができる。昭和24年(1949)の金堂火災により壁画が損傷を受けたため、皮肉にも往時のかがやきを伝える貴重な歴史資料となった。

## 2. 重要文化財

ほうりゅうじこんどうへまきがしゃしんげんぼん  
**法隆寺金堂壁画写真原板**〔出陳番号 32〕

昭和 10 年（1935）撮影

京都・便利堂



### 第一号壁 赤外線写真（ポジ〈陽画〉に反映させた写真）（前期展示）

原寸大分割写真撮影を受注した <sup>べんりどう</sup>便利堂 の発案で、①全図写真（12 枚）、②全図 4 色分解写真（48 枚）、③赤外線写真（23 枚）が撮影された。②はカラー図版を印刷するために 4 色のフィルターを介して撮影され、③は積年の <sup>くんえん</sup>燻煙 や退色、変色などにより不鮮明になっている図様を記録するために部分的に撮影された。焼損により金堂壁画が当初の彩色を失って以降、四色分解写真は往時の <sup>ふさい</sup>賦彩 を最も正確に伝えるものと理解され、多くの図版に使用されてきた。法隆寺所蔵分とならんで焼損前の壁画のあり様を伝える類例のない資料であり、また記憶されるべき記念碑的な写真撮影事業の成果として価値が高い。

### [ 8 ] 公開講座

1 月 11 日（土）「文化財写真の軌跡－150 年のあゆみ－」

宮崎 幹子（当館学芸部資料室長）

時間：午後 1 時 30 分～3 時（開場午後 1 時）

会場：当館講堂

定員：194名

聴講無料

※12時から講堂前にて、入場整理券を配布します（先着順、お1人様につき1枚）。

※入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

#### [9] 問い合わせ先

奈良国立博物館 〒630-8213 奈良市登大路町50（奈良公園内）

電話 ハローダイヤル 050-5542-8600

ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>

〈交通案内〉近鉄奈良駅下車徒歩約15分

またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から

市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ